

令和8年度 学力向上アクションプラン

学校番号 144

江戸川区立鹿本小学校

「全国学力・学習状況調査」平均正答率東京都との差				「江戸川区学力調査」平均正答率全国との差								
学年	第6学年			学年	第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
年度	国語	算数	合計	年度	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
令和12年度の目標				令和12年度の目標								
令和11年度の目標				令和11年度の目標								
令和10年度の目標				令和10年度の目標								
令和9年度の目標				令和9年度の目標								
令和8年度の目標	-5	-10	-15	令和8年度の目標	0	0	0	5	-5	0	-8	-5
令和7年度の結果	-4.8	-6	-10.8	令和7年度の結果	-3.5	-0.6	-7.8	-6.3	-1.1	-8	-10	-7
令和6年度の結果	-7.7	-14.4	-22.1	令和6年度の結果	-2	-8.2	-9.8	-12.5	-5.1	+1	-9.4	-14.1
令和5年度の結果	-7.2	-9.5	-16.7	令和5年度の結果								

年度	令和7年度	令和8年度	
内容	成果と課題	目標 目標達成に向けた取組	
学校全体	<ul style="list-style-type: none"> ○低学年では、繰り返し漢字の学習や、計算練習を行うことで基本的な計算力を身に付けることができた。 ○高学年では、よむYOMUワークシートを活用することで、文章の読解や短い文を読み取る力が向上してきた。 ●漢字に苦手意識をもっている児童が全体的に多く、繰り返し学習しても定着がつかなかった。 ●文章を読み、自分の考えを書く記述問題等も書くことに対して苦手意識がある児童が多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全学年がスタンダードに基づいた授業を実践する。 ○国語科の授業を要として各教科の特性に応じて、言語活動の充実を図ることを通じて、語彙の習得とコミュニケーション能力を身に付けられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○朝学習やマスターパンビでは、きくきくドリルとよむYOMUワークシートを行い、聞く力や読解力を身に付けられるようにする。 ○「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させるため、一斉授業と個別学習、デジタルとアナログを組み合わせ、授業のハイブリッド化を図る。
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> 【○成果 ●課題】 ○計算の学習を繰り返し行うことで、基本的な計算はできるようになった。 ○文章問題では、分かっていることや聞かれていることに線を引かせ何やら求めているかを考えさせる習慣を付けることで、立式をすることができた。 ○音読をすることで、語彙を増やすことができた。 ●計算問題だけでなく、式を用いて問題作成することが苦手な児童が多かった。 ●大きな数になどなかなか入らない児童や、10のまとまりで数えることが困難な児童がいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全学年がスタンダードに基づいた授業を実践する。 ○国語科の授業を要として各教科の特性に応じて、言語活動の充実を図ることを通じて、語彙の習得とコミュニケーション能力を身に付けられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○朝学習やマスターパンビでは、きくきくドリルを行い、聞く力を身に付けられるようにする。 ○「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させるため、一斉授業と個別学習、デジタルとアナログを組み合わせ、授業のハイブリッド化を図る。
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> 【○成果 ●課題】 ○計算の学習では、反復練習をすることで、70%～80%の定着を図ることができた。 ○算数の文章問題では、苦手意識はあるものの線引きを行うことで、立式することができ、60%達成することができた。 ●国語の学習は、漢字練習について繰り返し練習をするが、定着としてはいまいひとつだった。 ○国語の文章問題は、読書をする時間の確保をすることで読むことができた。また、授業の中でも場面の内容把握に時間をとった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全学年がスタンダードに基づいた授業を実践する。 ○国語科の授業を要として各教科の特性に応じて、言語活動の充実を図ることを通じて、語彙の習得とコミュニケーション能力を身に付けられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○朝学習やマスターパンビでは、きくきくドリルを行い、聞く力を身に付けられるようにする。 ○「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させるため、一斉授業と個別学習、デジタルとアナログを組み合わせ、授業のハイブリッド化を図る。 ○レディネステストに基づいた習熟の程度の違いを踏まえた学習集団を編成する習熟度別少人数指導を行い、個々の学習理解度に合わせた学習を行うことにより、基礎的・基本的な内容の習得を図るとともに、学習への意欲をもたせ、主体的に学習に取り組む児童を育てる。
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> 【○成果 ●課題】 ○毎週読書の時間を確保し、本を読む習慣を付けさせたことで、過去の本校の3年生に比べ、読むことの数値が高かった。 ○東京ベネックドリルなどを繰り返し取り組むことで、基本的な計算ができるようになった。特に、図形・測定の部分に関しては全国平均を超えることができた。 ●漢字を書くことが苦手な児童が多いと分かった。文章を読み、自分の言葉でまとめて記述することが苦手であった。 ●算数では、数と計算の領域の正答が低いと分かった。スピード重視で、計算のミスが普段から多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全学年がスタンダードに基づいた授業を実践する。 ○国語科の授業を要として各教科の特性に応じて、言語活動の充実を図ることを通じて、語彙の習得とコミュニケーション能力を身に付けられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○朝学習やマスターパンビでは、きくきくドリル(4年前半)とよむYOMUワークシート(4年後半)を行い、聞く力を身に付けられるようにする。 ○「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させるため、一斉授業と個別学習、デジタルとアナログを組み合わせ、授業のハイブリッド化を図る。 ○レディネステストに基づいた習熟の程度の違いを踏まえた学習集団を編成する習熟度別少人数指導を行い、個々の学習理解度に合わせた学習を行うことにより、基礎的・基本的な内容の習得を図るとともに、学習への意欲をもたせ、主体的に学習に取り組む児童を育てる。
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> 【○成果 ●課題】 ○授業での既習事項の確認や放課後補習教室、少数を取り出している学習、単元テスト前に復習の時間を設けたことで、少しずつであるが算数の基本的な計算ができるようになってきた。 ○よむYOMUワークシートを毎週実施してきたことで、文章の読解や短い文を読み取る力が向上してきた。 ●国語は昨年度と比べてB層が減り、D層が増えた。特に、人物の心情を書き抜く問題に課題が見られる。 ●算数は昨年度と比べてC・D層が減り、A・B層が増えたものの、特に数量関係を式に表す問題に課題がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全学年がスタンダードに基づいた授業を実践する。 ○国語科の授業を要として各教科の特性に応じて、言語活動の充実を図ることを通じて、語彙の習得とコミュニケーション能力を身に付けられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○朝学習やマスターパンビでは、よむYOMUワークシートを行い、聞く力や読解力を身に付けられるようにする。 ○「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させるため、一斉授業と個別学習、デジタルとアナログを組み合わせ、授業のハイブリッド化を図る。 ○レディネステストに基づいた習熟の程度の違いを踏まえた学習集団を編成する習熟度別少人数指導を行い、個々の学習理解度に合わせた学習を行うことにより、基礎的・基本的な内容の習得を図るとともに、学習への意欲をもたせ、主体的に学習に取り組む児童を育てる。
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> 【○成果 ●課題】 ○東京ベネックドリルの活用や授業での既習事項の確認をすることで、少しずつであるが算数の基本的な計算ができるようになってきた。 ○よむYOMUワークシートを毎週実施してきたことで、文章の読解や短い文を読み取る力が向上してきた。 ●データの読み取りや割合など与えられた情報から考えることが苦手な児童が多く見られる。 ●漢字の書くことが苦手な児童が多く見られる。読み取った内容から自分の考えを書くことが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全学年がスタンダードに基づいた授業を実践する。 ○国語科の授業を要として各教科の特性に応じて、言語活動の充実を図ることを通じて、語彙の習得とコミュニケーション能力を身に付けられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○朝学習やマスターパンビでは、よむYOMUワークシートを行い、読解力を身に付けられるようにする。 ○「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させるため、一斉授業と個別学習、デジタルとアナログを組み合わせ、授業のハイブリッド化を図る。 ○レディネステストに基づいた習熟の程度の違いを踏まえた学習集団を編成する習熟度別少人数指導を行い、個々の学習理解度に合わせた学習を行うことにより、基礎的・基本的な内容の習得を図るとともに、学習への意欲をもたせ、主体的に学習に取り組む児童を育てる。
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> 【○成果 ●課題】 ○算数授業の時には、ドリルパークで課題を出して取り組むことで知識の定着を図ることができた。東京ベネックドリルの活用やワークドリルを家庭学習で行い、基礎学力を身に付けてきた。 ○よむYOMUワークシートとワークドリルを活用し、読む力や漢字や言葉の学習力を入れ、向上がみられた。 ●毎単元後には知識が身に付くが、学期末のまとめ学習になると既習事項を忘れ、成果が上がらなかった。 ●文章を読んで比較し共通点や差異点を書き出すことが苦手であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全学年がスタンダードに基づいた授業を実践する。 ○国語科の授業を要として各教科の特性に応じて、言語活動の充実を図ることを通じて、語彙の習得とコミュニケーション能力を身に付けられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○朝学習やマスターパンビでは、よむYOMUワークシートを行い、読解力を身に付けられるようにする。 ○「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させるため、一斉授業と個別学習、デジタルとアナログを組み合わせ、授業のハイブリッド化を図る。 ○レディネステストに基づいた習熟の程度の違いを踏まえた学習集団を編成する習熟度別少人数指導を行い、個々の学習理解度に合わせた学習を行うことにより、基礎的・基本的な内容の習得を図るとともに、学習への意欲をもたせ、主体的に学習に取り組む児童を育てる。